

Patipadā

Vol.15, No.12 / 通巻 170 号

4

仏暦 2552 年
(平成 21 年 / 2009 年)

Namo Tassa Bhagavato Arahato Sammā Sambuddhassa

阿羅漢であり、正自覚者であり、福運に満ちた世尊に、敬礼したてまつる

パティパダー
Paṭipadā とは、

パーリ語で「道」を意味します。

中正の道（中道）、すなわち八正道は、

マッジママーパティパダーとします。

お釈迦さまのお示しになられた

幸福への普遍的な「道」を

私たちも歩み続けているのです。



日本テーラワーダ仏教協会

目次

Sabbe sattā bhavantu sukhitattā
生きとし生けるものが幸せでありますように

扉

「いま失敗しない瞬間を育てる」

● A・スマナサーラ長老
編集・佐藤哲朗

巻頭法話

安心という幻想

命は不安で成り立っている
We embrace the wrong way of life

根本仏教講義

サンガの経能力を奪う五つの障害 ⑤ 障害 ⑤ 疑

● A・スマナサーラ長老
編集／出村佳子

釈尊の教え・あなたとの対話

なぜウエーサーカは明るく派手に祝うのか？／禁煙したい／
障害者に生まれたら／医療は「気づき」のチャンスを奪う？

● A・スマナサーラ長老
編集／佐藤哲朗

パーリ経典を読む【新連載】

八正道大全 ④ 十の邪見 ⑦⑧⑩

● A・スマナサーラ長老
テキスト化／趙 顕治
編集／杜多千秋

Mindfulness in plain English

慈悲の瞑想 ②

● H・グナラタナ大長老
翻訳／出村佳子

ジャーナル物語

⑫ セーリヴァ商人物語

● 監修／A・スマナサーラ長老
編集／早川瑞生 イラスト／たまきゆきこ

初めての人のパーリ語

パーリ語アイウエ？オ ⑧①

● 文／小野道雄

パーリ経典 小部

ウダーナ ⑫

● 翻訳／正田大観
下訳／正田留衣

連載

特別寄稿

63

仏教とお洒落

● 文／酒主浄忍
イラスト／野口香

■ ミヤンマー・サイクロン被害の支援状況について

68

サイクロン被害義捐金報告書

● 文・写真／ウ・コーサツラ西澤長老

■ 関西精舎関係の進捗状況報告 (32)

70

新精舎竣工まであと少し、
そしてサンガへのお布施式典へ

● 文／趙 顕治
写真／舟橋昇一・趙 顕治・相田晴美

■ 協会会員主催活動のご案内

74

沖縄ダンマサークルの発足について

● 文・写真／沖縄ダンマサークル世話人
長嶺紀昭

■ 特別寄稿

76

日本人の心のよりどころ

● 文／五戒を守る僧侶の会代表
木下全雄

■ 協会会員主催活動のご案内

76

日本人の心のよりどころ

● 文／五戒を守る僧侶の会代表
木下全雄



会員のページ ひろば

76

日本人の心のよりどころ

● 文／五戒を守る僧侶の会代表
木下全雄

報告 / 寄稿

■ 協会会員主催活動のご案内

74

沖縄ダンマサークルの発足について

● 文・写真／沖縄ダンマサークル世話人
長嶺紀昭

■ 特別寄稿

63

仏教とお洒落

● 文／酒主浄忍
イラスト／野口香

■ ミヤンマー・サイクロン被害の支援状況について

68

サイクロン被害義捐金報告書

● 文・写真／ウ・コーサツラ西澤長老

■ 関西精舎関係の進捗状況報告 (32)

70

新精舎竣工まであと少し、
そしてサンガへのお布施式典へ

● 文／趙 顕治
写真／舟橋昇一・趙 顕治・相田晴美

■ 協会会員主催活動のご案内

74

沖縄ダンマサークルの発足について

● 文・写真／沖縄ダンマサークル世話人
長嶺紀昭

会員のページ ひろば

76

日本人の心のよりどころ

● 文／五戒を守る僧侶の会代表
木下全雄

協会ニュース 78

編集後記 79

4月 Information

行事と各種講座 & 会員の自主活動のご案内

裏表紙側 [info.1] よりお読み下さい

- Info.1 今月の初心者指導のある冥想会
- Info.2-3 ウェーサーカ祭お知らせ
- Info.4 お知らせ
- Info.5 指導者のご紹介
- Info.6-7 4月のスケジュール
- Info.8-19 行事・講座
 - 4月のトピックス
 - 4月の定例講座
 - 5月/6月の講座
- Info.20-21 宿泊冥想会
- Info.22-24 会員の自主活動
- Info.25-28 精舎のご案内
- info.29-30 協会のご案内

監修 アルボムッレ・スマナサーラ長老
本文イラスト たまきゆきこ／酒主浄忍／野口 香／乃美康治
本文写真 ウ・コーサツラ西澤長老／
相田晴美／趙 顕治／舟橋昇一／長嶺紀昭
表紙・扉デザイン おかざき さゆり
地図 おかざき さゆり
DTP おかざき さゆり／高橋優子

安心という幻想

命は不安で成り立っている
We embrace the wrong way of life

人間は何も持たずにこの世に生まれる。それから、こ

の世にあるものはすべて自分のものにしてようと努力しながら生きて、結局は何も持たずに死んでゆく。それでも、このみじめな生きざまを認めたくはないのです。否定したいのです。生れたことに、生きていることに、何と少しでも大きな意味があると納得したくて、妄想に富んだ哲学や宗教をたくさん作るのです。思想家、哲学者、宗教家が何を語っても、生きることには意義を見出すことは

できないのです。

何も持たずに生まれる。最初の生命を構成する精子・卵子さえも、親のもので。妊娠してから親といえるもので、生命体が精子・卵子をもらう時は、赤の他人からもらうことになるのです。ですから、死ぬまで親に対する借りがなくならないのです。親を軽視して、社会を軽視して、見栄を張って生きることが不可能な身分なのに、世界を制覇したいという気持ちは、変わらないのです。

仏教は、何も持たずに生まれるという一般的な表現はそれほど使わないのです。それなりの理由があります。

この世であろうと他の次元であろうと、新たな生命が誕生するということは、その次元で新たに「ここ」が生まれることです。こことは、ものごとを認識するはたらきなのです。ここでは瞬間瞬間、生じて滅する無常の流れなのです。ひとつのところで、ひとつのことを認識する。そのところが滅して、次に生まれるところで別なことを認識する。同じところで何でも認識するということは、あり得ないのです。これは理解するのは難しいポイントです。大胆な例えで考えてみましょう。ある悪人が怒りに狂って人々を殺しているとしみましょう。その殺戮現場に、父親を探しに来た自分の子供が入るのです。その瞬間、殺戮者はまったく違ったところで我が子を認識するので。その子もひとりの人間ですが、人間としては認識されないので。殺すべき敵である人間と、愛すべき、守るべき我が子とは、認識が変わるのです。同じところで何でも認識するのではなく、一個一個のこ

ころで、一個一個の対象を認識するのです。認識機能が隙間なく、止まることなく、起き続けるのです。認識に隙間がないので、観察能力のない人々は、人に変わらない魂があると誤解するのです。ここでは物質と違うはたらきなので、物質が壊れたとしても、ここも壊れて機能停止する必要はないのです。身体という物質が壊れてしまうと、認識のはたらきはその物体では起きないので。しかし、次の瞬間で別なところで認識の流れがスタートするので。それが死後の転生ということになります。

この世で人が生まれるということは、他のところで起き続けることができなかつた認識が、この世で起き始めたことです。新たな場所での認識が起き始めると、いままで認識が続き続けた物体から、何も持つてこられないのです。その物体が壊れたのだから、新たな場所には影響さえもないのです。ここだけの力で転生しなくてはならないのです。認識するたびに、ここにあるエネルギーが蓄積するのです。そのエネルギーが、業というのです。